

2011～2013 年度 セックスワーカーのセクシュアルヘルスに関する SWASH の取り組み

大阪府「HIV・エイズの正しい知識の普及啓発 及び まん延防止事業」

セックスワーカー向け啓発グッズの作成

セックスワーカー向けには、粘膜接触・体液接触を防ぐおすすせサーフェーサービス 32 体位のイラスト付き解説掲載「完全はたらきかたマニュアル」を制作し、それぞれ日中英の翻訳付で 1 万部の印刷を行いました。



啓発グッズの配布活動

大阪府内延べ約 500 店舗の風俗店に啓発グッズの配布を行いました。配布に際しては、働き方の講習の有無やニーズ、啓発グッズについての感想を聞くなど、経営者との関係構築の時間を大切にしました。風俗利用者向けの啓発ボールペンは、客の待合室に置いていただけるように、ボールペンについてのイラスト解説シールを貼ったペン立てと一緒に配布しました。このほか、毎月開催するセックスワーカー向けおしゃべり相談カフェのフライヤーの配布も行い宣伝しました。



相談業務・相談カフェ

毎月一回(計17回)、セックスワーカー向けのおしゃべり相談カフェ・Swash Paradise(すおばら)を開催しました。開催にあたっては、当事者の幅広いニーズや問題に対応したものにするため、毎回ゲストを招いて専門的アドバイスを用意しました(例:シングルマザー支援の専門家、借金問題の弁護士、制度活用について区役所の方、風俗講習師の人気風俗嬢、子ども問題専門家など)。



現場講習の実施



安全な働き方とお客さんに満足していただけるサーフェーサービスの仕方について、風俗店での現場講習会を 5 回実施しました。現場講習会では、安全な働き方についての実践的なレクチャーをし、性感感染症に関する悩みや質問に答えました。

保健師 HIV 相談員向け 手引書の作成



セックスワーカーの相談に携わる保健師さん、HIV 相談員さん向けに手引書を作成しました。

Web の再構築業務

作成したパンフレットのコンテンツを、Webに掲載するため、html化のコーディング作業を行いました。PC、スマホ、ガラケー対応の日中英で見れるようにしました。

<http://swashweb.sakura.ne.jp/>



自主的な取り組み

相談ホットラインや、事業の更なるフィードバックのために、セックスワーカー向け風俗求人誌/サイトおよび風俗利用者向け風俗誌において連載を持ちました。



アウトリーチや現場講習会においては、外国人セックスワーカーの働く現場をまわるとき、韓国のセックスワーカー支援団体に来日していただき、アウトリーチでの言語的サポートをいただき、協働アウトリーチを行いました。



2013 年度の活動について、2013 年 12 月 28 日の毎日新聞に取材していただき、記事として掲載されました。



セックスワークを取り巻く社会状況の変化

- 1999 年～風営法改正により、店舗型からデリヘル化へ。
↓↓↓
- 2005 年～人身売買罪の新設により、人身売買に関する研究/調査、関心が高まる。
↓↓↓
- 2009 年～派遣切りなど、貧困問題の文脈で SW がクローズアップされるようになる。
↓↓↓
- 2011 年～ JK ビジネスが社会問題化
↓↓↓
- 2012 年～ LGBT プーム再来。
↓↓↓
- 2016 年～ AV 出演強要問題が社会問題化

2014～2017 年度

2014 年度メルボルン国際エイズ会議参加レポート発行



2014 年国際エイズ会議に参加したメンバーで、報告書を作りました。SWASH の Web に掲載しています。

2014 年度 厚労科研費による梅毒啓発 (大阪)



厚労科研費「梅毒の新たな検査手法の開発等に関する研究」の協力として大阪で梅毒啓発を実施しました。

2014 年～2016 年度 風俗店オーナー研修



2014 年から 2016 年にかけて、札幌、大阪において、風俗店店長さんや男性スタッフの方を対象に、セックスワーカーが安全に健康に働くための研修を計 3 回行いました。この活動は、読売新聞でも取り上げられました。

2016 年度東京都委託事業



タイ人セックスワーカー向けに、タイ語でのサーフェーサービスのチラシを配布しました。また、日本人風俗店には、池袋、新宿、渋谷にて、梅毒予防啓発チラシを配布しました。

2017 年度東京都委託事業



風俗店利用者の顧客向けの啓発として、有楽町駅にて、啓発ボールペン 1500 本を配布しました。ボールペンの中の巻紙をひっぱると、東京都の保健所一覧と、梅毒に関する知識が載っています。また、風俗店で働くセックスワーカーの方々にもお送りし、お客さんに配布してもらいました。啓発キャンペーンの様子は、NHK ニュースの首都圏版で放送されました。

2017 年度 アドボケータ養成講座 (東京、大阪)



セックスワーカーの健康と安全、人権を守るアドボケータを養成する講座を、東京と大阪で計 2 回開催し、約 100 名の支援職、専門職関係者にご参加頂きました。この講座のことも、朝日新聞と大阪日日新聞に取り上げられました。

世界のセックスワーカーの HIV をめぐる歴史と運動のダイジェスト

※SW=セックスワーカー

セックスワーカーの運動の歴史のはじまり

- 1915年：モントリオールでセックスワーカーの労働組合
- 1969年：ストーンウォール暴動。セクシュアルマイノリティの運動も、セックスワーカーの運動も、トランスジェンダーのセックスワーカーが先駆者と言われている。

2000年代は国際機関との協働が活発化、資材開発、エビデンスの蓄積、SW ライツへの世界的理解が進む

80年代半ば頃～エイズパニックによるSW弾圧が激しくなり自助グループが各国に広がる

世界最大のセックスワーカーネットワーク組織 NSWP に加盟する SW 団体は、現在 263 団体(78 国) ※2016年の時点。以下は SW 団体のほんの一部。

1985年設立 1987年設立 1988年設立 1992年設立 1993年設立 1994年設立 1999年設立

PEPPER

2005年：(アメリカの反人身売買政策の影響による) 反売春誓約書へのサインを条件に助成金を与えるという PEPFER (大統領のエイズ救済緊急計画) 導入後、ブラジルのセックスワーカー団体 Davida とブラジル政府が USAID からのグラント拒否。その他の国々の団体も資金難に。

PWHのSW

2008年：Scarlet Alliance が「HIV とともに生きるセックスワーカーのニーズアセスメント」を調査、発表

2012年は、国連機関とNSWP、APNSWが報告書、ガイダンス、ツールキット等を連発

2012年：UNFPA, UNAIDS, APNSW 共同開発「HIV とセックスワークコレクションアジア太平洋における革新的対応」発行

2012年：HIV とセックスワークに関する UNAIDS の諮問グループ開発「HIV とセックスワークについての UNAIDS ガイダンスノート」発行

2012年：WHO、UNFPA、UNAIDS、NSWP 共同開発「低所得、中間所得層の国々のセックスワーカーのための HIV/STI 予防と治療に関する WHO 勧告」発行

2013年：WHO、UNFPA、UNAIDS、NSWP、世界銀行、UNDP 共同開発「セックスワーカーとの包括的な HIV/STI プログラムの実施」

2008年はエイズに関する2つの賞をセックスワーカー団体が受賞

タイのEMPOWERがレッドリボン賞を受賞

APNSWがHIV/エイズと人権に関する国際賞を受賞

セックスワーカーのセクシュアルヘルスにとって一番いい国/地域

1995年：オーストラリア・NSW州でセックスワーク非犯罪化

NSWのセックスワーカーは、HIV/性感染症の感染率が世界で最も極端に低く、移住労働者のセックスワーカーも同様に低い。また、非犯罪化から5年後の調査では、セックスワーカーへの保健サービスや安全へのアクセスが増えた。

ニュースウスウェールズ州

セックスワーカーと客に性感染症予防具の使用を課す売買改善法(2003)や「ニュージーランドの性産業における職業上の健康と安全に関する手引書」(2004年労働省)の政策も労働の安全に非常に役立つ。

2003年：ニュージーランドのセックスワーク非犯罪化

UNAIDSとの諮問グループ

2009年：UNAIDS 事務局長ミシェル・シディブ氏が、NSWP と UNAIDS が共同議長を務める、HIV とセックスワークに関する諮問グループを設置

コンドームのエビデンス利用問題

2012年：「コンドーム犯罪化」レポート発行 (オープンソサエティ財団)

LANCETによるSW非犯罪化提唱

2014年：世界的医学誌 LANCET がセックスワーク特集。「セックスワークの非犯罪化は、HIV 感染拡大を防ぐことにあらゆる状況において最も絶大な効果があり、この先 10 年の HIV 感染の 33-46% を防ぐことができるだろう」

IDUのSW

2015年：NSWP, INPUD 共同開発「ドラッグを使用するセックスワーカーに関する報告資料」発行

PrEP

2016年：NSWP 発行「PrEP に関する報告資料」